

Lymphomatoid gastropathy: 本邦発の新しいNK細胞増殖症

Lymphomatoid gastropathy

財団法人癌研究会癌研究所病理部

竹内賢吾

Kengo TAKEUCHI, MD., PhD.

Division of Pathology, Cancer Institute,
Japanese Foundation for Cancer Research

背景

2008年に改訂されたリンパ腫のWHO分類には60以上の病型が記載されている。これら明らかなリンパ腫に類似する良性病変がいくつか知られている。伝染性単核症、薬剤性リンパ節症（とくに抗瘰癧薬）、組織球性・亜急性壊死性リンパ節炎（菊池-藤本病）などである。演者は最近、胃における未知のNK細胞の増殖症を発見し lymphomatoid gastropathy（リンパ腫様胃症 LyGa）と名付けた。従来の病理組織学的クライテリアによれば、LyGaはリンパ腫、とくに extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal-type と診断されるであろう。しかし、その臨床経過により LyGa は良性病変としか理解できない。自然消退を来すからである。

症例

10例中男女は同数である。発症年齢は46から75才。全例で胃に起因する症状はなく、既往の胃癌に対する follow up や（3例）、検診で指摘された異常陰影に対する胃内視鏡検査にて発見されている。肉眼的には径1cm程度で小隆起ないし浅い陥凹性の早期胃癌様病変を呈する。10例中7例でリンパ腫の診断あるいは疑診断がついている。しかし、大部分の症例でステージングの再内視鏡検査によって消退が確認された。全例が化学療法なしで無病生存中である（最長観察期間10年）。

病理像

異型細胞は粘膜固有層にびまん性に浸潤し、ときに上皮内にも浸潤する。細胞は中型から大型の組織球様の核と、淡明から淡好酸性の細胞質を中等量有する。興味深いことに、大部分の症例で細胞質に大型の好酸性顆粒を有する細胞がみられる。マーカーは CD2-/+, CD3+ (cytoplasmic), CD4-, CD5-, CD7+, CD8-, CD16-, CD20-, CD45+, CD56+, CD117-, and cytotoxic molecule-related proteins+ (TIA1+, GranzymeB+, Perforin+), EBER ISH- である。

鑑別診断

NK細胞性のマーカー所見を呈することから、LyGaの最も重要な鑑別対象は extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal-type である。しかし幸いなことに、LyGaには extranodal NK/T-cell lymphoma としては非定型的ないくつかの特徴を有する。第一に、胃はNK/T-cell lymphomaの好発部位ではない。第二に、壊死はみられるがNK/T-cell lymphomaに特徴的な血管浸潤・破壊像はみられない。第三に、細胞像が異なる。とくに細胞質内の好酸性大型顆粒は extranodal NK/T-cell lymphoma では経験がない。最後に nasal-type NK/T-cell lymphoma ではほぼ100%で陽性のEBER in situ hybridizationはLyGaでは陰性となる。

結語

LyGaはまれではあるが、容易に過剰診断・治療につながる病変であり、その概念の周知が必要と考える。